

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 岡山市立三勲小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒703-8291
岡山県岡山市中区徳吉町一丁目 1-21

E-mail : sankuns@city-okayama.ed.jp

Website : http://www.city-okayama.ed.jp/~sankuns/

児童生徒数：男子 327 名 女子 227 名 合計 554 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容

1. 本校のESDの特徴

本校では、ふるさと岡山や三勲学区の“人・自然・文化”を題材とした学習に継続して取り組み、地域の環境問題や人権問題、歴史や文化について学習を深めている。6年生になると、学区に隣接する岡山後楽園の能舞台で、日本の伝統文化であり、ユネスコの無形文化遺産に登録されている能楽の発表会を開催する。本年度で15年目を迎えるイベントであり、地域の文化財を守る意識とともに、伝統文化を継承する担い手を育てる機会となっている。このような学習を通して、ふるさとを誇りに思いふるさとを愛する心を育むとともに、自ら課題を見つけ、追求し、解決していこうとする主体的な思考力や判断力を養ってきている。

これらの学習を継続し発展させることで、「地域の文化を持続可能なものにするための担い手づくり」をテーマに三勲ESDプロジェクトとして実践していく。

2. ユネスコスクールとしての活動・全体計画

学年	学年のテーマ	内容	時期
1年	昔遊びをしよう	地域の方に昔からの遊び(おてだま, けんだま, こま, おはじき, たけうま)を教わったりいっしょに遊んだりする。教えていただいた地域の方を招待して、昔あそびの発表会を開き、練習の成果を披露したり、地域の方と交流したりする。	10月~11月
2年	わたしのまちをたんけんしよう	三勲学区にはどんなお店や公共の施設があるのか、探検を通して調べていく。実際に学校の外に出て見学することにより、三勲学区について知ったり、町の様子に気づいたりする。	7月~11月
3年	三勲の宝物をさがそう	三勲学区の歴史あるものや歴史的行事をさがし、地域住民から昔のくらしや歴史ある建物について話を聞くなどして調べる。学習の成果をまとめ、発表会を開く。	1月~3月
4年	三勲の環境を守ろう	地域の特徴や問題点に目を向け、地域や社会がもっとよくなるためにはどうしたらいいか、自分にできることはないかという思いをもち実践する。	4月~9月
5年	三勲の歴史・文化を調べよう	後楽園、岡山城を見学したり、観光ボランティアの方の話を聞いたりして、歴史や伝統、そのよさについて理解を深め発表会を開く。	4月~7月
6年	能学習 伝統文化をさぐろう	4~5月は能楽について調べ、6月から能楽師を講師に招き、実技を伴う「能学習」に取り組む。11月に岡山後楽園の能舞台で発表する。2月に学習のまとめを学校HPにて地域に発信する。	4月~2月

3. 特徴的な活動事例の紹介

第4学年『ふるさと三勲』をつくろう

【単元の目標】

「ふるさと三勲」をつくることで地域の特徴を理解し、その問題点を直したり、長所を受け継いだりすることで自分にできることに気付くことができる。

【実践の展開】

- ① 学区のジオラマ「ふるさと三勲」をつくる。各クラスで分担してジオラマを作り、気付いたこと「自然・文化・交通・暮らし」に整理分類していく。
- ② 三勲学区の長所と短所について考える。ジオラマ作りで気付いたことを話し合い、問題点をつかむ。自分たちが気付いた長所と短所が事実かどうか検証し、三勲学区をよりよくするために自分ができることを考え実践するという見通しをもつ。
- ③ 調べる。現場を調査したり、インタビューしたりして検証する活動を通して自分ができることを見つける。
- ④ 調べたことをまとめる。単元を通して、思考の流れがわかるようにまとめる。
- ⑤ 実践の計画を立てる。実践できそうなことを考え、発表し実践につなげていく。



【成果と課題】

立体的なジオラマを作ることで、平面地図では捉えづらい高低差の視点で学区を考えることができた。また学区の特徴や問題点をとらえることで、地域と自分たち一人一人のつながり深く自覚することができた。

学区の改善に向けてすぐに効果がでるものは少なく、まわりの環境に対しての個々の働きが実感しにくかったところが課題として残る。

4. 今年度の成果と課題

○成果

【学校としての成長】

単元計画を立てる際に四つの力を意識したり、学習し身に付けた力を活用する場を設定したり、他教科や他学年とのつながりを考えたりして授業づくりをするようになった。また教師自身が地域の歴史や人々とのつながりに興味をもち、地域の行事に参加したり人材発掘に取り組んだりした。

【子どもたちの成長】

目的意識や相手意識をはっきりさせることで、見通しをもって体験学習を行ったり調べ学習を進めたりすることができるようになった。さらに「ふるさと学習」に取り組み、地域や伝統文化への理解を深め愛着をもつことで、地域の行事により積極的に参加する姿や伝統文化を受け継ぐことの大切さを実感した姿が見られるようになった。

○課題

12月に行った ESD「ふるさと学習」に関わるアンケート結果から、「自分の意見や行動によって周りの様子が変わると思う」という項目の伸びは見られなかった。これは自分が様々なものやこととつながっているという実感は高まったものの、自分から積極的に関わって地域をよくしていこうという意識までには至っていないからだと考えられる。つまり、頭では理解しているが、自分が地域の一人であるという意識

